

# 城陽市障がい者自立支援協議会

## 第 22 回 サービス調整検討部会報告書

平成 28 年 2 月 16 日

報告者 部会長 障害者生活支援センターはーもにい 小関 徹史

標記について下記のとおり報告します。

日 時	平成 28 年 1 月 15 日
場 所	城陽市福社会館 2 F
出 席 者	城陽市障害福祉課、城陽市社会福祉協議会訪問介護センター、朔日の会 指定居宅介護事業所ちゃれんじ、ヘルパーステーションそらいろ、 ホームヘルプステーションゆう、相談支援事業所 TOMO、青谷学園 城陽作業所、ヘルパーステーションスイート、みんななかま、南京都病院、 障害者生活支援センターはーもにい
検討課題	2 グループ(当日参加事業所をランダム)に分かれて『入所施設の余暇支援』『医療的ケア』 『各事業所で今抱えている問題』をテーマにグループワークを行い、それぞれどのような 内容の事を話しあったかを発表という形をとり全体で共有する。

### 【議事録】

#### 1 グループワークの内容(一部)

##### 入所施設の余暇支援

- ・自閉症の方(自傷あり)慣れたスタッフでないとトイレにも行けない。日中一時で対応できないかと市に問い合わせたが、医療の範囲だと言われる。緊急時こそ柔軟な対応が必要では無いか。
- ・国としての制度は無く、日中系の事業所が頑張っているのが現状。
- ・1人暮らしの引きこもりの方。悪性症候群を週3回訪問しているヘルパーが発見。ヘルパーと相談員との連携も必要。
- ・突発的な事への対応は難しいが、計画的であれば施設の体制を組み実行している

##### 医療的ケア

- ・日中みてもらいたいというニーズが高い
- ・職員が張り付きで対応するケースがあり、資格のある職員も少なく取得に時間、コストかかる。
- ・福祉サイドも医療を勉強していかなければならない。
- ・どうしても責任が大きいと感じてしまう。

##### 事業所から出た課題

- ・グループホームはどこの施設も大変。スタッフは疲弊している。作るのが怖くなる。
- ・地域で1人暮らしの方の対応。横浜市では24時間365日巡回のシステム有り。

- ・親も高齢化。親亡き後に向けて、親が元気なうちからエンディングノートの作成を。  
また、親が急病の時の対応も作っておく事が必要。

#### 4 まとめ

今回は参加事業所を事業所の種類で分けてグループワークという形をとってもらった。  
小規模になった事で全員の意見を聞くことができ、大人数だと発言がしにくいと感じておられる方も自分の考えをわかってもらえる良い機会になったと思う。分け方についてはメリット、デメリットもあったが結果的には活発な意見交換ができたと感じた。

テーマについてはこちらから提案したもの以外にも、それぞれが持っておられる課題についての話し合いができて、それに対して他事業所の意見も聞くことができたので良かったと思う。

以上